

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム  
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」  
による派遣研究者研究報告書

平成 27 年 4 月 5 日

所属部局・職	理学研究科、生物科学専攻、霊長研究所所属 修士 2 年
氏名	戸田和弥

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
新潟県 中頸城郡妙高 高原町杉ノ沢村 笹ヶ峰
<b>2. 研究課題名</b> (〇CBROの調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰積雪期実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 3 月 25 日 ~ 平成 27 年 3 月 28 日 (4 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学笹ヶ峰ヒュッテ、静岡大学杉山茂准教授
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>今実習は、京都大学笹ヶ峰ヒュッテにて、積雪地域におけるフィールドワークの基礎となるサバイバル技術を、実体験より学ぶ目的として行われた。今実習に先駆けて行われた、無積雪期の実習との比較によって、自然の変化を体感し、それに対する適切な対応を身につけるが期待できた。実習の内容は、かんじきを使用した雪上での歩行訓練、シールをスキーに装備しての歩行訓練、積雪期の笹ヶ峰生態の観察、雪崩事故の注意報とその対処法、雪を利用したイグルーづくりであった。私にとっては初めてのことばかりであるこの実習を通して、積雪場所でのサバイバル知識を学ぶことができ、今実習の目的は十分に果たすことができた。</p> <p>以下に、実習内容の詳細と感想を記述する。</p> <p>初日、用意していただいた雪上車で笹ヶ峰ヒュッテへ向かう。4mほどの雪の上を戦車のように進むが、途中雪の傾斜を均す必要があり、皆で手分けして雪かきをした。これらか誰もいない山へ入っていくのだ、という感じがした。</p>

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム  
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」  
による派遣研究者研究報告書



▲ヒュッテから見える雪景色



▲秋季の景色

二日目、かんじきを装着し深雪上を歩く、かんじきをつけてはいるが一步ごとに足が30cmほど雪の中へ沈む、足をしっかりと上げて小股で進んでいく。コンクリートの道を歩くのと比べれば何倍もしんどかった。昼からは、雪上にある動物の足跡から、冬の彼らの生態に触れた。また、小高い場所へ登り、樹木の状態から積雪の動体を確認する方法等を学んだ。

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム  
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」  
による派遣研究者研究報告書



▲森へと伸びる動物の足跡

夕食後には、国立極地研究所の樋口さんから、雪崩に関するレクチャーをしていただき、杉山さんからは、冬季の笹ヶ峰の生態について紹介していただいた。

三日目、シールをスキーに貼り付け、足に装着し、雪上を滑らしながら進んだ。シールは滑り止めの役割を果たし、緩い傾斜ならすいすい上ることができる。また、斜面を下る場合はシールを外せば簡単に滑ることができる。私はスキーの経験がほとんどなかったが、笹ヶ峰の白く美しい雪上を進むのは、何度も転びはしたがとても興奮した。機会を見つけ、また山スキーに挑戦したいと思う。



▲スキーで斜面を登る様子



▲完成した京大山岳部式イグルー

午後は、雪を使用したイグルーづくりを行った。踏み固めた雪をのこぎりで長方形に切り取り、スコップで取り出し、それを下かららせん状に積んでいく。円中に人が残りつつ、外と内から協力して積み上げ、頂上に達した雪を上手く支え合わせ完成させた。

最終日、再び雪上車に乗り、笹ヶ峰ヒュッテを後にした。私は寒い冬が苦手であったが、今実習の中でその苦手意識はどこかへ消し飛んだ。雪山は楽しいものだった。そのために大事なものは、寒さや雪に対するしっかりとした準備であり、それは知識や経験に直結する。このことはフィールドワークすべてに言えることで、各地の環境に適切な道具、行動が長期的な調査を支えていくのだろう。

## 6. その他（特記事項など）

今実習は、PWSより支援を受け行いました、ありがとうございました。  
直接指導していただいた松沢先生、幸島先生、杉山さん、樋口さんに心より感謝申し上げます。そして、同行していただいた左海さん、市野さん、大変お世話になりました。最後に、ともに今実習に参加した、有賀さん、沓間君、松島君、水越さん、樋口さあやさん、横塚さん、ありがとうございました。